

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年 10 月 6 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104138		
法人名	医療法人社団博寿会山下医院		
事業所名	グループホーム博寿会ほほえみ		
所在地	〒739-1734 広島市安佐北区口田1丁目14-10 (電話) 082-843-1011		
自己評価作成日	平成26年7月17日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成26年8月5日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>『入居者さんがどんな景色をみて、どんな暮らしをされ、過ごしておられたか』を大切にしています。地域の子供たちとの関わりあいや、近隣の商店に気軽に出掛けられることが大切です。地域への認知症の理解を深める活動や、地域との連携は非常に重要ですし、母体医療法人との連携で安心して過ごして頂けるホームでありたいと思っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホーム博寿会ほほえみ（以下、ホーム）は、太田川流域のJR芸備線の駅近くに位置し、母体の医院と連携しながら運営されています。ホームは、母体医院の向かいにあり、健康管理面で家族にも安心を提供されています。アセスメント様式を工夫し、入居者のこれまでの生活の歴史や背景、好きな場所や趣味、自宅のレイアウトを写真や図にし、入居者主体の支援に活かされています。職員は、入居者の思いを共有しながら、落ち着いて生活できる環境づくりと、笑顔につながるケアに努められています。管理者の「体験に勝る学習はない」という考えから、職員の外部研修参加を積極的に支援し、スキルアップの向上につなげるとともに職員が働き続けられる環境づくりに取り組まれています。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(1ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・『やさしさを大切に、ふれあいを忘れずに』の理念をグループホーム独自の理念として設立以来掲げている。ほとんどの職員は実践し、共有しているが、掲示についての提案があった。	理念は開設時に法人理念を基本に開設準備室で作成されました。職員は勤務に入る前、個々に唱し、理念に沿ったケアに取り組みられています。何かあれば手を止め、不安や孤独感を感じさせないように、入居者一人ひとりの思いを見極め寄り添いながら支援されています。	開所から11年目を迎え、入居者や職員の顔ぶれも開所当初から変わってきています。そのことを踏まえ、職員全体で理念の共有を図るため、現在の状況に理念を照らし合わせながら実践の振り返りや、理念を掲示するなど、理念の共有に向けて工夫されることを提案します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・近隣の中学校の職場体験の受け入れ・秋祭りの参加・近所のスーパーへの買い物などの交流を継続している。	母体法人が町内会に加入されています。地元のスーパーマーケットに入居者と一緒に買い物に行くなど、日常的に地域に出かけておられます。秋祭りには、子ども神輿がホームの敷地内に来て、入居者も楽しめます。管理者は、運営推進会議の内容を町内会に報告し、ホームの状況を知ってもらい、交流を深める努力をされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・認知症ケアについては管理者が認知症アドバイザー登録をし、昨年は1回サポーター講座を受け持った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・運営推進会議は奇数月の第4火曜日14時から決めさせて頂いて5年程経過し定着している。勿論参加者への連絡や開催後の議事録報告もしており、事故・苦情ともに意見を求めている。	会議は、家族、民生委員・児童委員、町内会青少年委員、地域包括支援センター職員の出席があります。また、時には市職員が参加することもあります。会議では、事故報告、行事報告とともに情報交換が行われ、最後に参加者から一言ずつ言葉があります。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	・運営推進会議の連絡は毎回しているが、欠席が続いている。	地域包括支援センターの依頼により、オレンジアドバイザーとして、地域の公民館、老人会で認知症サポーター養成講座の講師として協力されています。困難なケースの対応について、区担当課、地域包括支援センター、保健師に対応方法を相談されるなど、協力関係を築かれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>・生命に危険がある場合には規定の手続きを行い拘束することはある、立地条件に伴い(線路用水路)施錠している。</p>	<p>ホームでは、外部研修受講を積極的に支援し、伝達研修を行い、身体拘束をしないケアについて理解を深められています。職員は、連絡ノートを通じて身体拘束の具体的事例をあげ、申し送りで共有されています。ホーム裏手に柵が設置されていない線路があることから、危険防止のため施錠されています。入居者が外に出たい様子が見られるときは、職員付き添いのもと出かけておられます。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>・虐待防止の研修にホーム全体で5名参加し改めて介護とは？と言うことを考え新しい知識を身につける機会があった。入浴時更衣時排泄介助時など特に注意して観察し、心理面にも配慮している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>・現在は回覧による研修を行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>・契約および解約の際には十分な説明をしています。その後不安や疑問点などは来所時などに説明を行い納得されています</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>・面会時家族からの意見要望があれば傾聴し運営に反映させている。2ヶ月に1回の運営推進会議でひやりはっとや事故報告などが参加者に報告され意見を出して頂く様に心掛けている。</p>	<p>玄関に意見箱が設置されています。運営推進会議には年間で多くの家族が参加し、意見交換されています。また、毎年、家族交流会を開催されています。ホーム通信を毎月発行し、入居者の状況報告をされています。通信をきっかけに、家族から野菜の差し入れが始まった事例があります。家族の提案をもとに、その日出勤している職員の名前入り写真を玄関に掲示されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>・業務に関する改善策は連絡ノートに日々気づいた事を書き読んだ職員が意見を書き随時行っている</p>	<p>毎朝の申し送り時に、情報共有し意見交換されています。管理者は、職員と直に話し合う環境づくりに努め、意見や提案は改善に向けて話し合われています。カレーが食べたいという入居者の言葉を聞いた職員から提案が出され、カレー作りをするようになりました。現在では、月2回、入居者と一緒に希望の食事を作ることが定着しています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>・現在、介護福祉士は50%になり、今年も研修を受講している職員がいる。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>・グループホームでの新人研修期間は研修記録での管理者とのやり取りで状況把握をしている。研修についても回覧などで、随時知らせている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>・地域包括主催の口田地区地域密着サービス連携会議が2回開催され、近隣のグループホームの管理者と顔合わせや意見交換をしている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>・出来る限り本人さんの話に耳を傾けながら、不安などを和らげてあげられるように思っている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・入居時の提出書類に『どんな生活がしたいか？して欲しいか？』『不安なこと？』など記入して頂くようにしている。また担当者を決めて支援や傾聴に努めており、家族の不安や要望などがあれば出来るだけ素早い対応をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・法人内の居宅介護支援事業所のケアマネとも連携し、その人のための最良なことが出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・入居者さんが自分で出来ることは行って頂き、ホーム内で役割を持って生活して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・家族の役割は職員では代われないかけがえのないものであると考えています。ご家族には外出や外食も出来る時にどんどんお願いしますと伝えしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・馴染みの方が来られたらゆっくりと過ごせるようにしている。	職員は、家族と情報を共有しながら入居者の馴染みの場所等の把握に努められています。デイケアに通っていた入居者が、入所後も馴染みのデイケアの人と交流できるよう配慮されています。家族の協力を得て、馴染みの理容院やデパートへ買い物、墓参りや法要に出かける入居者もあり、関係が途切れない支援に努められています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・気の合う利用者同士に関してはその関係が維持出来る様に対話を通して把握する輪の中にとけこめない方もおられ、関わり合いをもって頂ける様にケアの検討をしていきたい。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・以前は退居されて別の施設などに住替えた方の面会などに出かけた職員もいる。また家族が患者として診療所で会うこともあり『その後はいかがですか』などと声を掛けたりしています。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・担当者や他の職員とも話し合いながらカンファレンスを行っている。	ホーム独自の「ライフヒストリー」に、本人、家族がどのような生活を希望しているかを記入されています。また、アセスメント時に自宅のレイアウトや趣味の物を写真に残し、思いや意向の把握に努められています。日常会話やモニタリングで新たに分かったことはカンファレンスで検討し、計画に反映されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・入居決定と同時に住んでいた家、部屋を訪問し、どんな景色の中でどう過ごしておられたかを確認している。写真を撮り他の提出書類やアセスメントなどと一緒に職員に事前回覧し、把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・職員間での情報交換、報告、記録の確認を日々行うように意識している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>・計画作成者は十分なアセスメントと課題分析を実施した上で、職員担当者と話し合いを行い介護計画を作成するようにしている、定期カンファレンスを開催し現時点での問題点課題を上げ検討し取り組む様にしている。</p>	<p>ホーム独自のアセスメント様式を使用されています。グループ担当制を設け、担当職員が3か月ごとにモニタリングを実施し、計画も見直されています。日々のケアの中でわかった新たな課題や家族の意向をカンファレンスで検討し、ケアマネジャーを中心に作成されています。介護計画は、職員がいつでも確認できるように工夫されています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>・記録で補えない事は申し送りの際詳しく伝えている、連絡帳を設けており更に細かい情報が職員に伝わるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>・併設のデイケアでのプログラムで入居者さん向けのものであれば、職員も同行し参加してりして楽しんでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>・地域の商店に職員同伴にての買い物をしている</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>・病院との併設によりすぐ対応出来る又かかりつけの病院がある方はご家族の協力のもと通院されている</p>	<p>入居前のかかりつけ医を継続して受診する入居者もいます。通院担当職員が医師や看護師の指示事項などを「通院ノート」に記録し、職員間で共有されています。家族にもノートの確認や電話で情報共有されています。ホームは、母体医院と連携し、医療面で安心な環境です。また、歯科医院も敷地内にあります。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>・入居者は入居時に法人の診療所を受診し健康チェックをしている。日々の業務報告も実施しており、日常的に看護職員と連携を取っている。受診の際には医療面を記録したノートを活用している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>・急変時に備え、診療所の病棟にも、入居者の情報については、ご家族了解のもと連携を取っている。他院への入院の際には、お見舞い訪問や退院の際の連携を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>・100歳を超えての入居もあり、重度化についての指針説明は行っているが、加えて、高齢者の急変時の対応などについても、ご家族にホームとして出来ることなどを説明し理解して頂くことに取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について、本人、家族と話し合い、主治医、母体医院とも相談しながら最善の方法を検討されています。これまで、医療と連携しながら、ぎりぎりのところまで支援された経験があります。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>・緊急時の対応についての研修を実施しているが、実践力には新人職員も多く、個人差が見受けられる。特に夜間の緊急対応については夜勤導入時に再研修している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>・水害地域であり、河川のライブカメラなどのインターネット情報を受ける体制をとっている。防災訓練については実践に即した訓練を回数多く実施したいものである</p>	<p>年2回、入居者も一緒に避難訓練を実施されています。過去の水害の経験から、ホーム1階の電気設備、コンセントは高い位置に設置されています。また、ホーム2階や母体の医院2階を水害時の避難場所として想定されています。</p>	<p>いつ起こるかわからない災害に備え、今後は、夜間を想定した避難訓練を実施されることを期待します。また、運営推進会議を通じて、災害時にはホームを避難場所にできることを地域住民に発信されることを提案します。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・性格やその日の体調、精神面を把握する様にしている当日出勤者同士で申し送りを行っている	職員は、入居者の個性に応じて一人ひとり人格を尊重した言葉かけや対応を心がけておられます。また、入居者の前で他の入居者の話をしないことを徹底されています。入浴は希望があれば同性介助が可能です。入浴時は、他の入居者が入らないよう鍵をかけるなど、羞恥心にも配慮されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・本人に決定権を促す言葉かけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・職員間の連携であったりケアの統一が十分でないこともあり単純な日々にならないように思われる(1人1人のペースは尊重している)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・マネキュアを塗って差し上げる、入浴時の着替えは上着、下着共にご本人の好きなもの、色等選んで着て頂く		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・『食事作りの日』には職員が入居者の可能な方全員で行える様にしている。日々盛り付け、片付けを利用者で行っている。	食事は宅配業者に委託されています。ご飯とみそ汁は職員の手作りです。家族から提供された野菜が、食卓に並ぶこともあります。梅や柿などの差し入れもあり、梅干しや梅ジュース、干し柿作りなどで入居者も活躍されます。また、月2回の食事作りも楽しみの一つとなっています。家族交流会では入居者も一緒におやつ作りに参加されます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>・毎月の体重測定を参考にし、職員で摂取量の検討をした上で健康状態が保てる様に対応している</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>・毎食後が口腔ケアを行っている、義歯洗浄もしている。法人内に歯科クリニックがあり歯科医師からの指示、アドバイスを実践、口腔内の状態を確認し定期クリーニング通院もしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>・認知症の進行により夜間排泄の失敗がある方は定時の声掛けや認知症薬の調整で失敗が減少した例がある。</p>	<p>トイレは3か所あり、広いスペースが確保されています。「排泄チェック表」を利用し、入居者一人ひとりのパターンが把握されています。排泄のリズムや様子から声かけ誘導し、自立に向けて支援されています。夜間、ポータブルトイレを使用する入居者もおられます。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>・下剤調整にて排泄コントロールをしているが、食事量、睡眠時間からの影響はないか検討している、今後は簡単な体操が実践出来るように考えたい。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>・一応スケジュールは立てているが、個別事情に合わせて支援している当日入浴出来ない状況であれば、翌日に入浴して頂き、フロアの状態にもよるが希望を優先している。</p>	<p>浴槽は個浴で、椅子式の入浴用リフトが整備されています。週3回以上の入浴を基本とし、1対1で介助されています。入浴を好まない入居者には、本人のペースに合わせながら声かけを工夫し、翌日支援するなどの対応をされています。毎日入浴剤の種類を変え、湯の色や香りも楽しめるよう工夫されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・臥床されたいであろう様子であれば声かけて居室へ誘導している、各入居者の暑がり寒がりを把握し布団室温調整を行う		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・薬剤情報はいつでも見ることが出来るように一元管理している、そのつどの個別情報は薬ノートを使用している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	・家事全般を行うことが好きだったら盛り付け片付け、洗濯物たたみ、塗り絵が好きな方には準備していつでも行える様にしている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	・年間行事として花見や外食支援を行っている、又買い物などの支援を行っている	日頃はホーム周辺を散歩されます。スーパーマーケットへ買い物に出かけたり、ドライブを兼ねて自宅を見に行ったりすることもあります。また、家族の協力を得て、外出や外泊を支援されています。花見などの行事は、状態に合わせて少人数のグループに分かれて出かけておられます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・ある程度自己管理可能な方は小額のお金を持ち買い物をされている		
		○電話や手紙の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・ご家族への電話はいつでもかけれるが、その方のご家族の事情もあり要望を傾聴したりすることもある。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・玄関に利用者さんの習字絵リボンには写真、壁画など飾り工夫している。洗面台、フロア、テーブルに花、観葉植物等飾り、1年の行事季節にあったものを飾っている。	玄関に季節ごとの行事写真などが掲示されています。共用空間は明るく、全体が見渡せます。壁には入居者の作品や写真などの掲示や、季節の花が飾られています。畳空間があり、入居者の休憩場所としても活用されるなど、思い思いに居心地良く過ごせるよう工夫されています。リビングの一角にテーブルと椅子を設置し、家族が訪問した際などに利用されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・リビングにはソファを設置し思い思いの場所で過ごせるように支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・居室にご本人の思い出の品、大事な写真等を飾り、リラックス出来る空間になる様に工夫している。	居室入口に野菜の絵が描かれた手作りの表札を掛け、一目で自分の部屋が分かるよう工夫されています。エアコン、ベッド、テーブル、ソファ、クローゼット、テレビ台が備え付けられています。自宅と同じように家具を配置し、落ち着ける空間となるよう工夫されています。入居者は、テレビや冷蔵庫、使い慣れた布団などを持ち込みまれています。また、写真の掲示や季節の花を飾るなど、居心地良く過ごせるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレには便所などの目印をしたり、してわかり易くして、手すりや足元の電気などで夜間もトイレにいけるように配慮している。		

V アウトカム項目(1ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(2ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事務所出入りに理念を掲げており、スタッフ全員がその理念を共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所の方と挨拶を交わしたり、地域の青少年委員や民生委員は運営推進会議などに参加してもらっている。また、地域の中学校の職場体験学習の受け入れも毎年行なっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者は地域住民を対象とした認知症サポーター養成講座を開催した実績がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	毎回、多数の家族の参加が出来ており、防災や、事故に関する質問など意見交換している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議への参加要請を行っており、年に数回は訪問して頂いている。		
		○身体拘束をしないケアの実践			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホームの脇には線路や水路があり、日常の見守りが出来ない時間は施錠することがあるが、入居さんが外へ行きたい気持ちがあれば、その都度付き添って外に出ている。防犯上必要な施錠は行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	言葉がけにおいて虐待に繋がる様な事例も見受けられ易いので、入浴時、更衣時、排泄介助時など特に注意している。特にお互いに注意し合えるように防止に努めている。痣や傷などの報告し合い記録にとって発見に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	過去には入居者の中に直系の親子でないケースもあり、成年後見制度について話をさせて頂いた機会があり、担当者ともミーティングをした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明を充分に行っているが、契約時に説明しても細かい事までは家族も覚えていただく事は困難であり、適時、求められた場合や必要時に説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者さんの要望などは迅速に対応しています。また意見箱を1階の玄関に設置しており、管理者が定期的に確認してる。		
		○運営に関する職員意見の反映			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	業務に関する改善案は連携ノートなどを利用し、意見を集約したりしながら、反映している。業務改善の話は随時行なっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人としての方針もあり、介護職員処遇改善には取り組んできた。休憩時間と業務時間を区分けしました。昨年度、介護福祉士を合格したのもいます。今年度も2名の受験予定者がいます。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	グループホームでの新人研修期間は研修記録での管理者とのやり取りで状況把握をしている。研修についても回覧などで、随時知らせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者は認知症リターナー研修などを通じて色々な情報交換をしている。地域の介護関係者との連携もあり、お互い認知症ケアの向上に取り組んでいる。昨年一度、今年の7/11に地域包括支援センターの主催する近隣のグループホーム同士の「連絡協議会」にも参加し、色々な意見交換を行なった。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居相談⇒申込⇒自宅訪問に出来るだけ早い時期から担当者を同行し、いい関係を築けるように努力しています。傾聴や寄り添いなどで安心して過ごしていける環境作りに努力した。		
		○初期に築く家族等との信頼関係	入居時の提出書類に『どんな生活がした		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	いか？して欲しいか？『不安なこと？』など記入して頂くようにしている。また担当者を決めて支援や傾聴に努めている。入居に至るまでの面接回数は個々に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居に至らないケースもあるが、その都度お話をさせて頂き、在宅での生活が維持出来る様な支援を連携して行う場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者の出来ることは自身で行なって頂き、役割を持って生活して頂いている。隣同士の席での会話出来る様な配慮をすることもある。相手の出来ることを引き出す支援を念頭においている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には月の便りで報告をし、面会時には状況をお伝えするなど職員も積極的に行なっている。入居後に状態が改善し、デパートへの買い物希望されたケースでは、今なら行けることをお伝えしご家族の背中を押した形になった。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方の訪問にはゆっくりと過ごしていけるように配慮しています。定期的に面会に来ていただけるようになりました。		
		○利用者同士の関係の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者さんが孤立しないように、又会話が出来様に席の配置などに配慮しています。また、逆に仲の良くない方は席を離すなどもしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	以前は退居されて別の施設などに住替えた方の面会などに出かけた職員もいる。また家族が患者として診療所で出会うこともあり『その後はいかがですか』などと声を掛けたりしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いを聴くようにしていますが、言葉に表せない方も多くおられる為、家族などに聞き取りを行ったりしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の提出書類やアセスメントなどを職員に事前回覧し、ベッド位置なども整えてからの入居にしています。介護計画には、本人の意向を大切に反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者さんひとりひとりの過ごし方にもお持ちの能力を十分に把握して十分に話合っている。介護記録には充分注意し、いつもと違うことには注意をする様にしている。前日と同じと思うなど指導もしている。		
		○チームでつくる介護計画とモニタリング			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成の時期には本人と家族にご意向をお聞きした上で、担当者と十分なアセスメントを行って介護計画を作成するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録は当日の職員が全員について記録するようにしている。担当者から、状況変化の場合など相談があり、カンファレンスをしたり、検討事項を回覧したりして見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	併設のデイケアでのプログラムで入居者さん向けのものがあれば、職員も同行し参加して楽しんでる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣のスーパーや雑貨店、また散歩など、地域を楽しめるように配慮しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	在宅時よりのかかりつけ医に家族と共に受診されている方もおられます。介護保険更新時には、アセスメントなどを家族を介して渡したり、場合によっては同行し状況を説明するケースもある。		
		○看護職員との協働			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	入居者は入居時に法人の診療所を受診し健康チェックをしている。日々の業務報告も実施しており、日常的に看護職員と連携を取っている。受診の際には医療面を記録したノートを活用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体である山下医院への入院の際にはアセスメントの提供を行ったりして状態の共有に勤めている。これらのことは他院においても同様に行なっています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化の指針については、入居時に説明し同意を頂いています。重度化したケースでは、主治医とご家族とのカンファレンスを開催した。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応についての研修を実施しているが、実践力には新人職員も多く、個人差が見受けられる。特に夜間の緊急対応については夜勤導入時に再研修している。母体法人診療日は、医療の介在も迅速である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	水害地域であり、河川のライブカメラなどのインターネット情報を受ける体制をとっている。運営推進会議の際に町内会の方とは共有しているが、実際の災害時には限られた職員だけでは不安な面もある。また水害については、簡易の排水ポンプが増設され、当面は浸水の可能性は低いのではと思われる。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

		○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保		
--	--	------------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格を尊重しプライバシーに配慮した言葉を掛けるようにしている。その人の顔つき、行動、声のトーンに注意して対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来る範囲で着替えの際の着るものなど自己決定できるように支援している。又日々の会話に注意をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	全て揃っているとは限らないが、体力面を考慮し活動面などを出来るだけ希望に添えるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	寝食分離をして本人の着たい着衣が着れるように又、女性はお化粧なども時にはされています。爪のおしゃれもしたい方にはして差し上げている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者さんは食事も盛り付けや食卓の準備など積極的にされており、職員も衛生に配慮しながら、支援しています。片付けでは洗い物を中心にさせて頂いています。食べたい物が食べれる様に考えている。		
		○栄養摂取や水分確保の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	定期的な水分摂取は毎日行っている。個々に合わせた食事形態で、浮腫などの観察も実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	3食後の口腔ケアを実施しており、見守りが必要な方、介助が必要な方、を把握している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレの失敗を減らす支援をしている。歩行がゆっくりな為機能性尿失禁の方には、夜間のみポータブルトイレの使用などとして、失敗は減少した。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	野菜ジュースなどの繊維質のものや、ヨーグルトなどで便秘予防をしているが、それでも困難な場合は下剤の相談を主治医にしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週単位である程度の入浴は決めているが、それはある程度入浴回数を確保する目的であり、状況に応じて必要と判断した場合には入浴して頂くように支援し、入浴剤なども使用している。		
		○安眠や休息の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入浴や通院などを午前中に行ない、午後にはゆっくり本人のペースで過ごして頂き、気持ちよく眠れるようにベッドの向き、布団の清潔を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書などは一元的に管理し処方度に更新している。医療関係を記載したノートも活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	主婦だった方には家事を、良く出かけていた方には、カラオケなど生活歴に応じた生活をして頂く様に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	グループホーム周辺の散歩や買い物たまには、ドライブなども実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	以前は、ご自分で買い物をされていたが、認知症の進行により自己管理が難しくなり、困難となった。		
		○電話や手紙の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話がしたいという要望があれば、随時支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節が分かるような、飾りを心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	1人掛けソファなどを活用しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には本人の馴染みの家具などを置いている。書いた習字や絵を飾ったりしている部屋もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレには便所などの目印をしたり、してわかりやすくして、手すりや足元の電気などで夜間もトイレにいけるように配慮している。		

V アウトカム項目(2ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム博寿会ほほえみ

作成日 平成 26 年 10 月 17 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間の避難訓練ができていない。	夜間の火災を想定した訓練の実施。	スタッフ一人ひとりに訓練を実施する。	平成26年中 (2か月)
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。